いきいき条例に基づく特定相談等の概要(平成30年度事例から抜粋)

	分野	主な障害種別	相談種別(暫定)	地域(市町村)	相談者	相談概要	対応・経過等	相手方	連携先
1	その他	精神	虐待	大山崎町	当事者	母親のハラスメント(言葉の暴力)がきっかけで、自殺を考えるようになったり、会社を辞めている。母親からの言葉の暴力に耐えられない。	障害者虐待防止法による養護者の心理的虐待にあたる可能性があることを相談者に伝えたと、相談者は、母親に聞き取りをされるのがいやだと言うので、虐待防止センターにそのことも含め、相談者から直接相談をするよう案内した。また、虐待防止センターへ情報提供をした。	教育機関	
2	商品販売・サービス提供	視覚	不利益取扱	精華町	事業者	スイミングクラブに入会しようと申し込みをしたが、断られたり、ヘルパーも同行するよう条件を付けられた。	複数のスイミングクラブに事実確認するとともに、近隣府県の差別解消条例担当者とともに差別解消法や条例の説明をした。その後、相談者はスイミングクラブに入会することができた。	その他事業所	
3	商品販売・サービス提供	肢体不自由	不快の念	京都市	当事者	UD(ユニバーサルデザイン)タクシーをワゴン・UDタクシー専用乗降所で利用しようとしたところ、あるタクシー会社の運転手の接客マナーが悪かった。	タクシー会社を訪問し、事実確認をしたところ、今後接客マナーの研修などを通して、運転手の接客の向上を図っていきたいと回答された。	その他事業所	
4	福祉	精神	その他	長岡京市	当事者	B型事業所で退職勧奨を受け、強制的に辞めさせられた。事業所と再度話し合いたい。	事業所に事実確認したところ、「事業所が相談者に注意や指導をした際、相談者が激怒して退職をしようと言った」と相反した内容であった。相談者の希望である事業所との再度の話し合いをお願いした。話し合いの結果、相談者の誤解であったことを双方から報告があった。	福祉関係機関	
5	教育	聴覚	合理的配慮	不明	当事者	聴覚障害があり、入学を希望する専門学校に合理的配慮の依頼したところ、「制度がなく出来ない」と回答された。何か良い方法はないか。	相談者はすでに合理的配慮の提供について専門学校に直接交渉をしており、広域専門相談員からの事実確認と調整の意向を確認できなかったため、受講のための自立支援機器について情報提供をした。	教育機関	